

■ 当院の基本理念 ■

県民のこころの健康を守るために、専門的な精神科医療の提供を、地域社会と連携し、誠実にを行います



こころの風景 水挽副院長コレクション

シリーズ こころの散歩道 vol.45

茶の湯と平和

戦後 80 年の今年、終戦記念日前日の8月 14 日に裏千家の前家元である千玄室さんが死去されました。102 歳でした。千玄室さんは、10 年前の平成 27 年に当院の敷地内にある、筑波海軍航空隊記念館へ慰霊献茶式に訪れています(こもれび第 24 号[平成 27 年3月 31 日発行], 裏千家ホームページ「宗家だよりアーカイブ」献茶式の記録『千玄室大宗匠、茨城を訪問 筑波海軍航空隊記念館慰霊献茶式』参照)。このとき、一盃を英霊の御霊に、もう一盃は世界の平和への願いを込めて二盃のお茶を捧げました。

千玄室さんは、大学生の時に学徒出陣で海軍に入隊し、志願して特攻隊員となって土浦海軍航空隊で訓練を受けました。出陣の直前に終戦を迎えたことから、生き残った自分とあの戦争に生涯向き合い、帰らぬ人となった戦友への鎮魂と平和への祈りをこめて全国各地で献茶式を行ってきました。

国連親善大使にも任命された千玄室さんは、世界中でお茶を点ててきました。「一盃からピースフルネスを」という理念に基づいて、「世界中の人々が『お先にどうぞ』と勧め合う心で一緒にお茶を飲む。一步でも半歩でも自分が下がるという気持ちを持てば、けんかにならないということです」といいます。ちなみにこの「盃」は茶道(抹茶)で使われる蓋(フ)がない器を現わします(蓋のある器は碗、椀などと書かれます)。

千利休が戦国時代に現れて、茶の湯を通じて人々に安らぎと侘び寂びの美意識を広めようとしていました。利休の作った茶室の入口は「にじり口」という二尺二寸(約 66 cm)四方の狭いものです。武士も商人も誰も身分の差なく、同じように頭を下げなければ入れない、茶室に入れば平等であるという意味が込められていたそうです。

千玄室さんの亡きあと、私たちはいまだに戦争が続くこの世界で、譲り合う気持ちと人は皆平等であるという意識を大切にしていきたいと思います。

茨城県立こころの医療センター病院長 堀 孝文

電気けいれん療法



今回は藤田先生から東洋医学に基づく漢方薬での治療についてお話いただきました。今回はお薬以外の治療をご紹介します。

電気けいれん療法(ECT:Electro Convulsive Therapy)という治療について、水挽副院長に教えて頂きました。

Q1. 電気けいれん療法の歴史

1929年、てんかん患者さんは精神分裂病(現在の統合失調症)を合併することがすくない、と報告されました。これをヒントに、1938年から、人為的にてんかん発作を誘発して精神病を治療する試みが始まり、目覚ましい効果を挙げました。

その後、てんかんと精神病との間には関係がないことが明らかになり、効果のメカニズムはいまだ不明です。しかし、薬物による治療が困難な方に対して、大きな効果をもたらす切り札的な治療として、欠かせない治療になっています。

Q2. 電気けいれん療法の方法と実績

通常はてんかん発作に伴い、誤嚥や筋肉痛、時に骨折などの問題が生じることがあります。当院で行う修正型電気けいれん療法は、全身麻酔をかけて行うため、これらの合併症を防ぐことができます。



また頭部に通電をすることでてんかん発作を誘発しますが、その通電量はマイクロコンピューターで制御されたパワー半導体が綿密にコントロールし、脳への影響を最小化できるようになっています。

当院では毎週2回、5～6名ずつ治療を受けています。一人当たり計6回(3週)ないし12回(6週)で終了します。

物理的な治療ですので、どなたも受けられるというわけではなく、薬物療法の効果が期待できない重症の方がこれまで対象になってきましたが、どの方においても症状の軽快を認めており、良好な結果を得ています。

デイケア プログラムのご紹介

～第3弾 『SCIT（スキット）』～

- デイケアは自宅や入所施設から通所するリハビリ施設です
 - 当センターのデイケアでは軽スポーツや手工芸などの他に様々な学習系プログラムをおこなっています
 - デイケアメンバー個々の課題や目標に応じて必要な取り組むプログラムも様々です
 - 多くのメンバーが一般就労・就労支援施設などステップアップや復職・復学しています
- デイケアプログラムのご紹介も今回が最終回です。他にも紹介したいプログラムはたくさんありますが、最終回は『SCIT（スキット）』をご紹介します！

『SCIT』は Social Cognition and Interaction Training を略したもので、日本語にすると『社会認知ならびに対人関係のトレーニング』です。

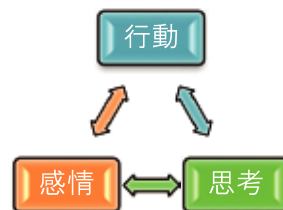
社会認知機能と言って相手の表情を読む、言葉ではないしぐさでその場の空気感などを読み取る、相手の気持ちや考えを読み取る、社会で生きていくためのルールや知識を理解するといった機能についてトレーニングをおこないます。週1回、100分のセッションを全8回のプログラムで実施しています。

写真や動画を通して、人の表情・感情についての理解、対人場面で何が起きているかの把握の仕方、自分自身の考え方のクセを学びます。ご自身の体験を話したり、他者の体験から学ぶことで、対人関係における問題解決能力を高め、より良い実生活を送ることができます。



プログラムの様子

SCIT 三角形



感情と思考は密接に結びついているといわれます。プログラムで SCIT 三角形を利用し感情や思考を変えると行動が変わることを体験してもらえます。



大規模地震時医療活動訓練に参加して

内閣府が主催する大規模地震時医療活動訓練が9月5日6日に開催されました。今回は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を想定し、北海道・青森県・岩手県・宮城県を舞台に訓練がおこなわれました。

当院からも DPAT(災害派遣精神医療チーム)が参加し、青森県庁の本部で活動しました。本部では被災地の状況や医療ニーズの把握、関係機関と情報共有、被害状況等を踏まえ精神科病院や避難所への支援を目的にDPATの派遣調整などをおこないました。



本部活動をおこなう
隊員の様子



訓練に参加した隊員

参加した隊員の声

「DPAT 隊員養成研修を受講したが、教わった内容をどう活かされるのか、イメージがつかずにいた。訓練を通して理解を深めることができ、よい経験になった」

児童・思春期外来の 初診予約方法が変更されました



**予約方法が
オンライン申し込みになりました**

9月1日より、当院児童・思春期外来の初診予約方法が、オンライン申し込み・トリアージ制へと変更になりました。

新しい予約方法では、いばらき電子申請・届出サービスを利用したオンライン申し込みとなります。児童思春期専門医によるトリアージ(重症度や緊急性に応じた優先度の決定)によって、重症度や緊急性に応じてより早期に適切な支援につなげることが可能となります。



児童・思春期予約案内ページはこちら



公開講座レポート

思春期の発達障害の子の対応

9月8日、県民の方向けに、公開講座「思春期の発達障害の子の対応」を開催いたしました。

講座では「思春期のとらえ方」から「発達障害とは何か」へと話題が広がり、参加者は熱心に耳を傾けていました。

講師は、思春期特有の心の変化や行動の背景を解説したうえで、「医療機関は万能ではありません。診断を待つのではなく、地域でできることから取り組む姿勢が大切です」と強調しました。さらに「医療機関も地域の一員として、担える役割を果たしていきたい」と述べ、医療と地域の連携の重要性を訴えました。



WEB 参加者へ向けて、
カメラに訴える神 Dr

精神科ネットワーク連携医療機関紹介



医療法人永慈会

永井ひたちの森病院

異なる医療機関・施設間が連携をとることで、患者さんの症状に対する適切な医療提供を行えるようにネットワークを図り、包括的な連携支援体制を構築しております



医療法人永慈会は海と山に恵まれた温暖な土地である日立市に1972年に設立されました。その恵まれた環境の中で我が法人は育まれ大自然の教えや息吹を感じつつ成長してきました。

常に「全て良くなっている」「全てが良くなる」と前向きな気持ちは感謝の気持ちで治療することを教えて頂いております。

我々スタッフは「尊き仕事のためにまごころと誠意をもって働く」を理念として掲げく人々の健康と幸せに寄与してまいります。健康のこと、心と体のお悩み、お気軽に私たちにご相談ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	○	○	○	○	○	○
14:00～16:00	—	○	○	○	○	—

※月曜午後・祝日午後・日曜日は休診です。

郵便番号：319-1413

住 所：茨城県日立市小木津町 966

病 院 名：永井ひたちの森病院

TEL 0294-44-8800 FAX 0294-42-4843

茨城県立こころの医療センター広報紙 第87号 発行：こころの医療センター広報委員会 発行者：堀 孝文
発行日：令和7年10月1日 〒309-1717 茨城県笠間市旭町 654 TEL:0296-77-1151 FAX:0296-77-1739